

平成21年度第2回（第9回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成21年9月7日（月） 10時～12時

2 場 所 磯辺地域ルーム（磯辺第一中学校内）

3 出席者

- (1) 委員 22名
欠席：高橋委員、池上委員
- (2) 事務局
古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補
- (3) 傍聴者 13名

4 議題

- (1) 磯辺地区の中学校の適正配置の方向性
- (2) 次回開催日時・場所

5 会議資料

- (1) 平成21年度磯辺地区学校適正配置地元代表協議会委員名簿（変更版）
- (2) 平成21年度に算出した推計による磯辺地区の状況
- (3) 平成21年度第1回（第8回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨
- (4) 教育だよりちば74号・75号

6 会議の概要

- (1) 磯辺地区学校適正配置地元代表協議会委員の変更について
委員名簿（変更版）をもとに、役員改選等による委員の変更について事務局より説明があり了解された。変更版についても、ホームページで公開することが確認された。
- (2) 高洲・高浜地区学校適正配置地元代表協議会の協議状況について
協議の状況について以下のような報告があり、質疑応答がなされた。
 - ・高洲第一小学校と高洲第二小学校との統合がまとまり、教育長へ「要望書」を提出することになった。統合時期は平成23年4月、統合場所は高洲第一小学校の位置とする。ただし、高洲第一小学校改修中は高洲第二小学校を仮校舎として使用する。
 - ・今後、高浜第二小学校と高浜第三小学校との統合についての協議を進める。仮に統合が合意され新設校を開校する場合には、高浜6丁目は磯辺第三小学校へ学区変更したいという希望が出ている。
- (3) 磯辺地区の中学校の適正配置の方向性について
まず、資料「平成21年度に算出した推計による磯辺地区の状況」をもとに、今年度の推計による磯辺地区の小・中学校の児童・生徒数、学級数の推移、参考統合シミュレーションの状況等についての説明があり、質疑応答がなされた。

各小・中学校の保護者へのアンケート調査等をもとに協議され、中学校の統合に対する賛成意見が多かった。委員からは「小学校よりも中学校の統合を早くするべき」、「もう少し保護者の意見を吸い上げてから決定した方がよい」といった意見が出され、各委員が協議内容を各団体に持ち帰り意見を吸い上げ、継続して協議すること、次回には方向性を見出すということが確認された。

(4) 次回開催日時・場所について

協議の結果、平成21年10月26日(月)午前10時から12時、磯辺地域ルームで開催することとした。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶

これまでの協議では、保護者の方の熱い思いが伝わってきた。私の思いとしては、磯辺地区の学校の質をよりよくしたい、充実した教育環境を作っていききたいということである。それは、そこにかかわる人たちの熱い思い、協力により実現するものであると思う。子どもたちのために、少しでも早く、より良い教育環境を整えていきたい。磯辺を住んでよかったと思える地域にすることが、私の願いである。

(2) 議題

報告 高洲・高浜地区学校適正配置地元代表協議会の協議状況について

<鳥越議長>

事務局に説明をお願いする。

<事務局>

9月6日(日)の千葉日報の記事を見て、ご存じの方もいると思う。高洲・高浜地区の協議会では、高洲第一小学校と第二小学校との統合が決定され、9月9日に教育長に要望書が提出される。統合時期は平成23年4月で、統合場所は高洲第一小学校の位置となる。ただし、改修中は高洲第二小学校を仮校舎として使用することになる。今後は、高浜第二小学校と高浜第三小学校との統合についての協議を進めることが確認されている。仮に統合が合意され、新設校を開校する場合、高浜6丁目は磯辺第三小学校へ学区変更したいという希望が出ている。

<亀井委員>

高浜第二小学校と高浜第三小学校との統合場所は決まっているのか。また、高浜6丁目が磯辺第三小学校に学区変更するのは、いつ頃になりそうか。

<事務局>

高浜第二小学校と高浜第三小学校との統合については、まだ方向性を見出した段階であり、具体的な協議はこれから行われる。高浜6丁目が磯辺第三小学校へ学区変更するとすれば、それは統合校開校時となる。

議題(1) 磯辺地区の中学校の適正配置の方向性について

<鳥越議長>

前回に引き続き、磯辺地区の中学校の適正配置の方向性について協議したい。事務局に資料の説明をお願いする。

<事務局>

※ 資料「平成21年度に算出した推計による磯辺地区の状況」をもとに、磯辺地区の児童・生徒数・学級数の推移と統合シミュレーションの説明がなされた。特に磯辺第三小学校の児童数が昨年度の推計よりかなり減少しており、これは高洲4丁目にあるニチロ跡地の開発が凍結していること及びJFEナヴィールからの住民の退去によるものである。現在は滞っているが、駅前の利便地でもあり今後開発が進む可能性はある。また、磯辺第一小学校脇の空き地についても、動向を注視していく必要がある。参考統合シミュレーションについても、今年度の推計をもとにやり直している。

<鳥越議長>

何か質問や意見はないか。

<村上委員>

JFEの状況だが、蘇我地区においても社宅等の統合や整理が行われている。この状況は今後も続き、高洲4丁目のJFEナヴィールもその対象となるだろう。

<橋爪委員（磯辺第二中学校保護者会代表）>

資料「平成21年度に算出した推計による磯辺地区の状況」の中学校のシミュレーションの中の「マリーナストリートで学区調整した場合」をみると、磯辺第二中学校が6学級になる可能性がある。現在の9学級から6学級になった場合に、教育環境として変わることは何か。

<事務局>

まず、免許外指導を行う教員が出る可能性が高いということがある。おおよそ9学級がその境となっており、それを下回ると可能性は高くなる。次に、部活動の運営に支障が出る可能性がある。子どもの数と教員の数が減るので部活動数も減るだろう。部活動選択の幅が減り、活動を活性化することも難しくなると考える。また、教員の事務負担が増えることにもつながると考える。

<村上委員>

第一中学校と第二中学校とで、部活動を共同で実施するような動きはないのか。

<橋爪委員（磯辺第二中学校保護者会代表）>

今のところ、それはない。

<村上委員>

今の段階はわかるが、教育委員会としてそういったことを考えているのかということを知りたい。

<亀井委員>

それは学校レベルで考えることではないか。

<事務局>

学校では、部活動も含めて学校長の判断で教育活動を行っている。対象校同士で相談してできるかもしれないが、活動時間やスケジュールの調整、子どもたちの移動時間等を考えると、実際に行うことは難しいだろう。そういった負担を考えると、統合した方がよいのではないか。

<山崎委員>

高洲4丁目のコージースクエア隣の空き地はどうなっているのか。また、教育だよりちばをみると、千葉市でも小中一貫教育校の設置を推進するとあるが、どのような動向なのか。

<事務局>

まず、先ほどのナヴィールの動向であるが、事務局としても調査は行った。他地区のJFEの建物については、更地にしたり民間に売却して中古マンションとして再生させたりしている状況はある。高洲4丁目については、今のところそういった計画は未確定だと聞いている。

小中一貫教育については、まだ研究段階である。小中連携教育については、千葉市でも取り組んできており、今年度も幸町第二中学校と幸町第三小学校を研究校に指定し、研究を推進してもらっている。今後その成果を踏まえて、一貫教育校の設置も検討していくことになる。小中一貫教育推進にあたっては、メリットもあればデメリットもあり、その検証は必要だと考えている。なお、仮に小中一貫教育校を設置するとなれば、「小学校と中学校とが隣接している」「学区が一小学校、一中学校である」等の立地条件が整っていることが望ましいだろう。

<山崎委員>

例えば、高浜中学校と高浜第三小学校とは隣接しており、条件は整っている。高浜地区の適正配置を考えるにあたり、小中一貫教育校の設置を検討することはできないのか。

<事務局>

地元からの要望により、検討することは可能だろう。

<橋爪委員（磯辺第二中学校保護者会代表）>

先ほどの免許外指導教員についてだが、可能性が高いのか、必ず出ることになるのか。

<事務局>

はっきりとはいえないが、出るだろう。

<亀井委員>

教員配置の基準を変えることはできないのか。

<事務局>

教員については県費負担であり、配置も県の基準に基づいている。また、その基準は学級数を基本としている。県も努力して配置基準の見直しも検討している。現在も小学校1・2年生、中学校1年生については38人学級として教員を配置している。

<大浦委員>

中学校の統合により、特に部活動については数が増えて活性化することはよいことだと思うが、それに伴うグラウンドや体育館の使用割り振り等は大丈夫なのか。

<事務局>

現在小規模校である磯辺第一中学校や磯辺第二中学校も、以前は20学級以上あった学校なので、問題はないと考える。

<竹内委員（磯辺第三小学校保護者会会長）>

自分たちの時代は仕方なくそれでやってきたが、グラウンドや体育館を交代で使用していた。それでは練習不足になるし、活性化にはつながらないだろう。部活動も教育活動の一環であるので、それを保障できるように教育委員会も考えるべきだろう。

<大浦委員>

子どもたちの数が増えれば、活動スペースは取りづらくなる。例えば、跡施設となる中学校のグラウンドや体育館を使用することは可能か。

<磯辺第二小学校保護者と教師の会代表>

真砂地区では、真砂第二小学校の敷地も使って真砂第一中学校の位置に統合中学校を設置すると聞いたが、磯辺地区でそういったことは考えられるのか。

<事務局>

今の段階では何とも言えない。この地元代表協議会でよい案を出し合い、検討してほしい。

<竹内委員（磯辺第三小学校保護者会会長）>

先程の部活動と一緒にを行うということだが、教育委員会から指導はできないのか。

<事務局>

地域によっては例があるが、あくまで、学校長同士の話し合いによる。先ほど言ったとおり、活動時間やスケジュールの調整に係る打ち合わせ等の負担や、子どもたちの移動時間等の負担を考えると、実際に行うことは難しいだろう。

<石塚委員>

子どもたちの人数が少ない学校では、合同チームを組んで総合体育大会等に出ているケースはある。部活動にしても、子どもたちのために学校は考えて運営している。

<村上委員>

第一中学校と第二中学校の現在の状況を打開できないかと考え、質問した。部活動運営面だけの理由で統廃合を考えない方がよいだろう。

<鳥越議長>

前回から、中学校の適正配置について本格的に協議を始めた。前回の協議で、磯辺第一小学校・磯辺第二小学校・磯辺第一中学校では、中学校の統合について賛成の保護者が多いことがわかった。各学校の保護者の代表者におかれては、前回の協議内容について、保護者におろして検討していただいたことと思う。その状況を報告してもらい、協議を進めたい。第一小学校の保護者の方から発言してもらってよろしいか。

<磯辺第一小学校保護者会代表>

5月にとったアンケート調査では、76%の方が（中学校の統合に）賛成であった。保護者の意見を集約すると、部活動の充実や免許外指導がないことを望んでいるため、小学校より中学校の統合の方をより強く望んでいるという傾向がみられる。（第一小学校は、第一中学校に通学する家庭と第二中学校に通学する家庭とがあり、）第一中学校区の賛成は80%、第二中学校区の賛成は70%である。第二中学校区の方が、現状に不満がないと感じている保護者が比較的多い為であると思われる。

<磯辺第二小学校保護者と教師の会代表>

4月にとったアンケート調査では、63%の方が中学校の統合に賛成であった。その理由としては、部活動の数、教科担任制の維持等があげられている。ただし、統合中学校の位置により、この数値は変化するという。

<竹内委員（磯辺第三小学校保護者会会長）>

夏休み前にアンケート調査を行った。回答率は30%ほどであった。昨年度の話し合いの状況により、第三小学校は統合から外れたという雰囲気があり、関心が薄れたように思う。回答のうち30%が反対、20%強が賛成であった。アンケート調査の文書に統合することのメリットを記述したが、目の前に第二中学校があり、第一中学校まで通学することへの不安はある。自由記述には、「まだ決まらないのか」「中学校については、そのままにしてほしい」といった意見も寄せられた。

<石毛委員（磯辺第四小学校保護者と教職員の会代表）>

臨時の役員会を開き、役員の見解を聞いた。中学校の統合にはおおむね賛成であった。中学校の現状を考えると、中学校の統合を先に進めてはどうかという意見が出ている。

<黒澤委員（磯辺第一中学校保護者会代表）>

4月下旬にアンケート調査を行った。77%の回答率で、統合を行ってほしいという意見が65%であり、反対は24%であった。賛成者のうち半数は「小学校と中学校とを同時に統合してほしい」という意見であった。理由としては、学校行事や部活動の活性化、より多くの人間関係の構築、高校進学時のギャップ克服等である。

<橋爪委員（磯辺第二中学校保護者会代表）>

夏休み前にアンケート調査を行った。前回のアンケートは回収率が45%しかなかったが、今回の回収率は80%であり、そのうち「統合した方がよい」が15%、「今後第二中学校が小規模化するのなら、やむを得ない」が49%、「第二中学校が小規模化しても、このままがよい」が20%、「統合しない方がよい」が15%であった。「統合した方がよい」と「やむを得ない」を合わせると64%となり、問題意識を持ってきていると感じる。前回のアンケート調査と異なり、「早く進めてほしい」という意見もあった。

<松岡委員（高浜第二小学校保護者と教職員の会代表）>

高洲・高浜地区の地元代表協議会で、高浜第二小学校と高浜第三小学校との統合の方向性が出ており、そうなると、基本的には高浜第二小学校は高浜中学校の学区となる。しかし、その場合でも、磯辺第二中学校または磯辺地区の統合中学校に通学を希望することもできる。磯辺地区の中学校の統合について意見を述べる立場ではないと思うが、希望としては磯辺第二中学校が残ってほしいと思う保護者は多いと想像できる。

<鳥越議長>

小学校と中学校、どこから手をつけていけばよいか。

<事務局>

その前に、中学校の適正配置の必要性について、了解されたのかを確認してほしい。

<村上委員>

統合の必要性はわかる。しかし、前日も発言したとおり、中学校は小学校の後に行った方がよい。小中一貫教育の推進状況も見据えて、じっくりと行ってはどうか。

<藤岡委員>

中学校の統合は早く進めてほしい。もしできれば、小学校と中学校、併せて行ってほしい。

<大浦委員>

約70%の保護者が賛成をしている状況を考えれば、統合の方向でよいのではないか。

<関委員>

統合には賛成である。

<亀井委員>

基本的には賛成である。しかし、教員の配置基準を見直してほしいという条件付きである。

<水谷委員>

統合は必要だと思う。しかし、保護者のアンケート調査の回答率を知りたい。話を聞いていると、学校による温度差を感じる。レベルをそろえてもらわないと判断が難しい。教員の配置は、県に任されているのか。

<事務局>

一般の教員は、県費で雇用されている。非常勤教員については、市費で雇用することはできる。教育環境整備については、千葉市教育委員会としても検討しているし、今後も必要な支援は行っていきたい。

<尾身委員>

高浜6丁目の子どもたちは、磯辺第三小学校に学区変更されればこれまで通り磯辺第二中学校に通学することになる。統合はやむを得ないという気持ちもあるが、理解不足の面があるのではないか。

<山崎委員>

第一中学校も第二中学校も、しばらくは3学級ずつある。当面そのままでもいいのではないか。地域のエゴで少し言わせてもらえば、高浜第二小学校の保護者には磯辺第二中学校に通学させたいという保護者が多いと思う。

<安達委員>

基本的には賛成である。この問題は10年くらい前から上がっており、早くしてほしいという声も聞く。新しい学校として生まれ変わるということでよいのではないか。

<近藤委員>

小規模校のよさもあるが、統合も必要だろう。

<今井委員>

賛成である。中学校を先に行った方がよい。

<橋爪委員（磯辺第二中学校保護者会代表）>

先ほど、「第二中学校では中学校の統合に賛成の意見が多い」と言ったが、「議論を尽くしてほしい」という声も依然としてあることは承知してほしい。

<竹内委員（磯辺第三小学校保護者会会長）>

第三小学校のアンケート調査は、意識を調査した程度のもので議決ではない。回収率も30%であったことも考慮してほしい。

<村上委員>

今日は、中学校の適正配置の必要性を理解できたか、できないかということでよいのではないか。

<事務局>

中学校の適正配置についての概ねの理解が図れば、協議をステップアップできるだろう。

<鳥越議長>

これまでの意見を聞いていると、おおむね中学校の統合に賛成というようにとらえた。早めに統合した方がよいという声もある。新しい統合中学校を創設するというのでいかがか。今後の進め方について事務局から提案はあるか。

<事務局>

一つの考え方として、まずは今後も小規模な状況が続く可能性が高い学校について、考えてはどうかということである。つまり、中学校2校及び磯辺第二小学校と磯辺第四小学校である。その際、中学校の統合を先に進めるという考え方もある。仮に、中学校の統合を先に進めると、第一小学校が抱える「中学校進学の際に子どもたちが分散しまう」という課題は解決する。

磯辺第一小学校と磯辺第三小学校については、高洲4丁目と第一小学校脇の空き地の開発状況により児童・生徒数の増加が見込まれるので、しばらく様子を見るという考え方もある。いずれにしても、保護者や地域の皆様の納得がいく進め方を協議してもらいたい。

<竹内委員（磯辺第三小学校保護者会会長）>

先ほどの委員の皆さんの意見は、それぞれが所属するコミュニティーの総意なのか。保護者の代表は、保護者の意見を吸い上げながら発言しているのだが。

<藤岡委員>

私は地域の代表として、発言したり意思表示したりしている。

<安達委員>

校長先生から依頼を受けた時、評議員の一人としての意見でよいと聞いている。

<今井委員>

第二小学校評議員の総意ではなく、委員として意見を申し上げている。

<事務局>

それぞれ立場が違うので、状況は異なるだろう。保護者の代表は、各学校の保護者の意向を吸い上げながら発言せざるを得ないが、一委員としての発言も当然あってよいだろう。

<大浦委員>

私たち地域の委員は、基本的には保護者の意見を尊重しようと考えていることは理解していただきたい。また、子どもたちの将来を考えていることには変わりはない。

<亀井委員>

町会の集まりの中で話はしているが、昨今個人情報取り扱いが厳しく、子どものいる家庭を調べることに難しい。自治会として意見を集約することは難しいことをご理解いただきたい。

<藤岡委員>

先程の質問は、自治会として全世帯の意向を聞かないと決められないということか。

<竹内委員（磯辺第三小学校保護者会会長）>

100%まとめてほしいということではない。保護者の代表は、各学校の保護者の代弁者となっている。その違いは理解してほしい。

<水谷委員>

磯辺第三小学校の回答率が3割しかないことが気になる。学校による温度差があるように感じる。

<吉岡会長>

アンケートの回収率が悪い理由としては、「統合はやむを得ない」、「(この代表協議会に)任せる」という意思の表れではないか。

<竹内委員（磯辺第三小学校保護者会会長）>

先程の結果は、統合に対しての総意を問う調査ではなかったもので、その集約意見として捉えられるのは困る。自治会としての賛否の裏付けも必要なのではないか。

<大浦委員>

アンケートを取るのなら、全員に出してもらった方がよい。数値としての裏付けがないと、保護者に対して説明できないということもある。一方、自治会は、保護者の意向に沿って判断していきたいと考えているので、自治会としてのアンケート調査は必要ないだろう。この協議会の結果を説明する形の方がよい。

<山崎委員>

私の自治会では、これまでに6回ほどの説明会を行ってきたが、参加者数は毎回30人程度である。私としては、参加しない多くの住民はこの件に対して「お任せする」として判断し、参加した方々の意見を協議会でお話しさせていただいている。

<村上委員>

私の自治会では、自治会組織の中に統合問題に関する委員会を作って報告している。この委員会での討議内容を踏まえて本協議会で発言している。また、居住者には自治会報を通して協議会の討議内容の要旨を報告している。

<鳥越議長>

今回は、協議内容を持ち帰り検討してもらい、次回の協議会で方向性をつけたい。「中学校を先に統合した方が小学校の統合もまとまりやすい」や「小学校を先に統合し、その後中学校の統合を検討した方がよい」等の意見があったと思う。

<亀井委員>

教育委員会として、方向性が決まればよいのか。大まかな統合の合意はできると思うが、自治会としてはそれ以上のことはできないと思うのだが。

<別所副会長>

統合の時期や統合校の位置等についても、この協議会で協議していくことになる。

<事務局>

確かに、統合の合意がなされた後は、教育委員会にお任せという方法もあるが、統合の順序、時期や統合場所についても協議していただきたい。磯辺第三小においては、新しい情報をおろしてもらい、意見を吸い上げてほしい。

議題（２） 次回開催日時・場所について

<鳥越議長>

今回は、10月26日（月）に行いたい方がよろしいか。

<竹内委員（磯辺第三小学校保護者会会長）>

保護者の代表として自分が出席したいので、できれば土曜日に行ってほしい。

<磯辺第二小学校保護者と教師の会代表>

保護者代表が出席できない日程では困る。土曜日の方が都合がよい。

<橋爪委員（磯辺第二中学校保護者会代表）>

今回は中学校の方向性が決まる大切な日なので、考慮してはどうか。

<吉岡会長>

土曜日は地域の行事やそれに伴う会議等が目白押しで、協議会の開催は難しい。代理の方に出席してもらうこともできるので、提案どおりでどうか。

（賛成多数）

<鳥越議長>

様々な都合や意見があったが、原案通り、10月26日としたい。

（４）連絡

<事務局>

○議事要旨については、案を作成し、委員の皆様を確認をいただいた上で完成版とし、教育委員会のホームページ上に公開したい。各委員におかれては指定した期限までに確認して回答をお願いしたい。（メール可）また、期限までに回答がないものについては「了承した」として取り扱いたい。

○欠席する場合だが、事前に電話連絡をお願いしたい。また、代理出席も可能なので、その点も含めてご連絡願いたい。

（５）閉会

<吉岡会長>

本日も活発に協議いただき、ありがたく思う。子どもたちの健やかな成長に資するように話し合っていくことが大切だと思う。今後ともよろしく願いたい。